令和4年度　山口県立宇部中央高等学校定時制課程　学校評価書　　校長　山本　泰之

1　学校教育目標

教育目標・・・・・・・・・	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを　友に誠を　人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒を育成する。
中・長期目標・・・・・・・	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

・生徒が自己肯定感をもてる指導を推進し、ICTを活用した授業を研究するなど、教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。
・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」における資格取得の向上への取組など、早期からキャリア教育を意識して進路支援の充実に努めることが必要である。
・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりを推進し、出来るだけ早期から外部関係機関との連携し生徒支援の切れ目がないようにしていく。
・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、進路指導における全体の指導力の向上が必要である。

3　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

（1）基礎基本の徹底とキャリア教育の充実
（2）ICT等を活用して、主体的に学ぶ態度の育成
（3）業務改善による教職員の資質向上と健康増進

4　自己評価　／　5　学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもって取り組めるような授業の工夫と改善及び新指導要領に対応した評価方法の確立。	・理解しやすい授業、わかる授業により基礎基本の定着を図るとともに、学習意欲向上に繋がる評価方法も工夫し、参加している実感や興味がもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4：80％以上であった。 3：60％以上であった。 2：40％以上であった。 1：40％未満であった。	4	・授業アンケートを2学期末に実施した。よくあてはまるが56%、ややあてはまる33%と肯定的な結果が89%と概ね目標が達成されてと考えている。県教委、文科省や近隣の中学校で先行実施されている新学習指導要領の評価方法等を参考に策定したが、今後も検討を重ね客観性のあるより良いものにしていく予定である。また、評価の結果が生徒に還元されるよう、より良い指導方法の確立に繋げていきたい。	・生徒が満足できる高い結果を出されていることに感謝したい。様々な事情を抱える子どもたちへのきめ細かい指導のたまものだと考える。 ・タブレットを活用するために専門家を招いて日々指導方法の改善に取り組まれいてることは大変評価できる。 ・ICT活用についてはもっと具体的な評価基準が欲しいところである。	A
	○ICTを活用した授業展開の研究を行い、教員全体の指導力の向上を図る。	・ICT機器使用の研修に参加したり、実践成果を共有できる検討会などを設けることにより、教員個々のさらなるスキルアップに繋げる。	4：研修会や検討会に参加し、指導力向上に大いに繋げられた。。 3：研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋げられた。 2：研修会や検討会に参加たが、思うように指導力向上に繋げることができな 1：研修会や検討会に参加したが、指導力向上に繋げることができなかった。	3	・生徒全員にタブレットを配布し、教室には電子黒板が設置されている。また、教員用のタブレットも1台ずつ支給されICT環境は整備されている。機器の使用に不慣れな教員が多かったが、相互研修や機器の効率的な使い方の検討会も適宜開催し、昨年に比べ多くの教員がスキルアップしてきている。また、週1回ICT支援員の方が来校され、基本的な操作方法や効果的な指導方法を習うことが、ICTを用いた授業展開の工夫に大いに役立っている。来年以降はさらに生徒が主体的に機器を活用できる環境を整えて行きたい。		
生徒指導	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4：校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3：校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2：生徒への対応が図られた。 1：生徒への対応に不十分な点が多かった。	3	・学校側（担任、養護教諭、教育相談担当）とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。希望に応じて、保護者のカウンセリングも行っている。 ・また、校外での各組織（市役所、児童相談所）とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議に参加してきた。	・定時制は全日制以上に、生徒との信頼関係を築くことが何より大切な現場だと考える。普段の私たちが知らない時間帯の、様々な事情を抱える子どもたちへの対応に追われる先生方のご尽力のたまものである。高い評価の維持をこれからも期待したい。 ・具体的な数値を示して、評価をしてもらいたい。	B
	○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多種多様であり、学校不適応による意欲の低下やいじめなどの人間関係トラブルを各学期のアンケート調査や個人面談により事前に察知し、全教員でその情報の共有をはかる。	4：個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3：個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2：支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1：支援と指導が不十分であった。	3	・生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。職員会議において、定期的に情報交換を行った。個別支援や指導方法については、共通理解のもとに取り組んできた。 ・飲食を伴う学校行事が中止や変更となる中、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒のますますの経験不足や友人関係の希薄さが憂慮される。	・コロナ禍で定着した新しい価値観により、不安を感じている生徒や保護者がいることも想定できるため、各専門機関と連携して協議していることは評価できる。 ・達成度の分析では良いことが多く書かれているが、達成度合いがそれに比していないように思われる。	
進路指導	○ 個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。	4：7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3：半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的進路に結びついた。 2：情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1：情報伝達に終わった。	3	・例年通りの進路決定に伴う支援をしてきた。進路希望を明確にしているものについては、進学、就職ともに順調に進んだ。しかし，生徒のなかには進路決定が遅れ、進路先が未定のままで卒業を迎えるものもいる。今後も可能な限り支援を続けていくことが必要である。	・定時制は生徒との信頼関係を築くことが何より大切な現場です。今後も様々な事情を抱える子どもたちに対応してもらいたい。 ・定時制の進路指導は生徒個々人の意欲に大きく左右されるため、個性に応じて資格試験や進路先のマッチングを細かく行うことが必要である。 ・卒業時に進路先が未定のものがいるとのことであるが、可能な限りの支援を卒業後もお願いしたい。	B
		・「総合的な探究の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4：生徒の70％以上が受検し、合格率は50％以上であった。 3：生徒の70％以上が受検し、合格率は30％以上であった。 2：生徒の50％以上が受検した。 1：生徒の50％未満しか受検しなかった	3	「総合的な学習・探究の時間」のスキルアップタイムは定着してきたが、生徒の実施意欲に大きな差を感じた。合格率や受験意識を高めるために、個人の選択と検定・資格の種類の不一致をなくすことが大切である。事前のオリエンテーションをしっかりと行い改善する必要がある。		
特別活動	○ 生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良き慣習が引き継がれるように支援する。儀式的活動では望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事に変更や工夫を加えることで、多くの行事を実施し、全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定体連行事などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出に残るものとさせる。	4：すべての行事で主体的かつ協調的に活動させることができた。 3：2つ以上の行事で主体的かつ協調的に活動させることができた。 2：1つ以上の行事で主体的かつ協調的に活動させることができた。 1：すべての行事で主体的かつ協調的に活動させることができなかった。	4	・コロナ過の中、多くの生徒会行事が中止となったが、今年度は、変更や工夫を加えることで、伝統的行事の復活も予定している。また、新たな行事も実施している。 ・生徒数は40名余りではあるが、集団に参加できない、意欲が低いなど、多様な生徒がいる。なるべく多くの生徒が参加できるよう行事に変更や工夫を加えて、様々な経験を積ませていきたい。	・多様な生徒が在籍している中、生徒が経験できる行事を工夫しておられることは大変評価できる。 ・今後も一人でも多くの生徒が「高校生としての経験」を積むことができる工夫を期待したい。 ・主体性は大切だが、儀式的なことはまずしっかり教えてほしい	A
業務改善	組織的な取組 ○教員全員による業務内容の点検と改善	・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、教職員間の情報交換を活発に行い、協働体制を整え、全員で指導にあたる。	4：教員同士の連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3：教員同士の連携は進んだが指導力の向上までは至らなかった。 2：教職員同士の連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1：教職員同士の連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・進路講演会やキャリアセミナーにおいて、ハローワークや山口しごとセンターからの講師や就職サポーターを招き外部機関との連携協働を図った。また、職員会議等で情報交換を積極的に行い、生徒が進路目標を見出せるよう指導を行っている。 ・また教育相談等においても、スクールカウンセラー、児童相談所、警察等と連携して取り組み、常に教職員間でこまかな情報共有を行った。教職員全員の共通認識のもとで生徒に対応した。	・進路は学内の教員だけでなく、学外者との連携が重要であると考える。そのため、積極的に外部機関と連携協働していることは大変評価できる。 ・限られた時間での連携や情報共有など、とてもきめ細やかな取り組みの評価結果を感じる。 ・業務改善の目標と評価項目がこれでよいのかは疑問である。	A
	整理整頓 ○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・定期的に職員室の書架や校内サーバ内の文書を整理し、業務の精選と情報へのアクセスの効率化を図る。	4：学期に1回以上整理をした。 3：年間2回整理をした。 2：年間1回しか出来なかった。 1：1回も出来なかった。	4	・各分掌業務の記録を整理して残し、人事異動があっても適切な業務の引継ぎができるよう整理を行っている。また新しくなったH.P.の効率的な運用についても取り組んでいる。		

【成果】	①スクールカウンセラーや様々な外部機関と連携して、生徒支援を行うことができた。 ②ビジネス文書検定に多くの生徒が合格し、漢字検定でも2級を合格するなど、資格取得に対して意欲が向上しており、スキルアップタイムの定着が図れている。 ③コロナ禍の中、行事の目標を考えることで、創意工夫を行い、生徒会行事を今までとは異なる形で実施することができ、生徒の自己肯定感を高めることができた。 ④卒業生に対して個々に応じた支援を行い、多くの生徒が進路実現に向けて努力をし、目標を達成した。
【課題】	①生徒が他者と関わり、協働しようとする姿勢を育成していくことが大切である。そのための行事やしくみを考えたい。 ②個別支援が必要な生徒、集団での活動が苦手な生徒が増加傾向にある。進路実現も含めて多面的に成長を促す必要性がある。 ③ICT機器の活用は昨年度より確実に向上したが、さらにスキルアップの必要がある。 ④コロナ禍の影響もあり、PTA活動への保護者の参加率が低い状況であった。全日制・定時制の垣根を超えたPTA活動への参加が課題である。

7　次年度への改善策

①学校行事の目標を全体で共有し、他者との共生・協働しようとする姿勢を育む。
②入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目がないようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して進学指導を教職員全体で取り組んでいく。
③ICT機器の活用について、研修会の参加や校内研修の活性化をより促進していく。
④PTAがより積極的に関わるよう、行事を企画し、保護者へ周知徹底するとともに、地域との連携も図る。